



臼杵市西中は同校の学校林を生徒たちが守る「100年の森プロジェクト」を立ち上げました。  
3年の佐藤世壺さん（15）の呼び掛けがきっかけです。

①佐藤さんがこのプロジェクトを提案したのはどのような理由からでしょう？

生徒会長の佐藤世壺さん



【臼杵】臼杵市西中（小野雅史校長、317人）は同校の学校林を生徒たちが守る「100年の森プロジェクト」を立ち上げた。3年の佐藤世壺さん(15)の呼び掛けがきっかけ。学校林の整備を通し、地域を巻き込んだ持続可能な社会の実現について考える。

### 佐藤さん企画

### 臼杵・西中プロジェクト

# 100年の森育てよう

佐藤さんは今年1月に生徒会長に就任。学校や地域のために新たな取り組みを考えていた際、約4キロ離れた鎮南山の二丁目付近に学校林があることを知った。広さは約8千平方メートル。70年前に当時の在校生と教員がヒノキの苗を植林したという。学校ぐるみで環境教育の場として活用できないかと、プロジェクトを提案した。

卒業生らが「西中学校林



学校林を訪れ、整備の重要性について学ぶ佐藤さん（右）＝臼杵市鎮南山

## 卒業生と協力 学校林整備へ

一連の活動は、教員に学びの場を提供する団体「先生の学校」（東京都）に注目され、オンライン講演の依頼を受けた。同団体によると、20歳以下の講師は初めてで、佐藤さんは5月、約170人の小中学校教員らに向け、画面越しで活動内容や目標を語った。

「先輩方の知識や思いを受け継ぎ、後輩にも伝え、100年の森に成長させる」と佐藤さん。小野校長は「今年は学校林70周年の節目。生徒からの提案に頼もしさを感じている。体験を通して自ら考え、行動する力を身に付けてもらえるようバックアップする」と話した。（衣笠由布紀）

を守り育てる会をつくり、地道に手入れしていることを知り、協力を依頼。在校生が管理に加わる「パトントッチ交流会」を本年度中に計画している。

新型コロナウイルスで臨時休校となった間も同会メンバーと現地に足を運んで整備の重要性を学んだ。祖父が管理する森の間伐作業を体験するなど、交流会に向けて下調べと準備を着々と進める。

2020年6月9日付 大分合同新聞 14面

②学校林を守るためにどんな活動を計画していますか？

③記事には「同校は学校林の整備を通し、持続可能な社会の実現について考える」とあります。「持続可能な社会」とはどんな社会ですか？

④持続可能な社会を実現するために、あなたができることを考えてみよう。